

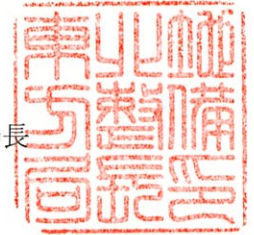


公共工事等における新技術活用システム事後評価結果通知書

国東整施企第63号
国東整海技第12号
令和5年1月10日

ダンレックス株式会社 御中

国土交通省
東北地方整備局長



下記の技術について、新技術活用評価会議における評価の結果を通知します。なお、評価結果についてはNETISに掲載します。

記

- 1 技術名称 自動省電力モードを搭載した保安灯
- 2 NETIS登録番号 KT-180086-A
- 3 評価結果 活用効果評価結果のとおり
- 4 継続調査等の必要性について 継続調査等を必要としない。
- 5 その他 この結果に基づき、当該技術のNETIS登録番号・情報種別記号は「-VE」に変更され、掲載期限が当初にNETIS登録した翌年度の4月1日から起算して10年を経過した日まで延長されます。
また、今後の活用効果調査及び事後評価は実施されません。

異議申立について

上記について異議がある場合は、事後評価結果を通知した日から起算して10日以内に整備局長宛てに異議理由を明示した書面を提出することにより、異議申立を行うことができます。

(提出先)

東北地方整備局
新技術活用評価会議事務局

活用効果評価結果

令和4年度

東北地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報	開発目標	経済性の向上、安全性の向上、地球環境への影響抑制、省資源・省エネルギー					
	新技術登録番号	KT-180086-VE	区分	製品	有用な技術の位置づけ		
	分類	仮設工 - その他					
	新技術名	自動省電力モードを搭載した保安灯 (不点灯の防止、ランニングコストの低減、環境負荷低減)					
	比較する従来技術 (従来工法)	自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II)					
	新技術の概要及び特徴	本技術は工事規制区域において用いられる保安灯の電池残量が少なくなった際、自動で省電力モードに切替わる技術で、従来は自動省電力モードを搭載していない保安灯で対応していた。本技術の活用により、日照不足時の不点灯の防止に繋がりが安全性が向上します。					
活用効果 評価	所見	<p>従来技術に比べて活用効果は優れており、多くの現場で良い評価を得ている。 なお、下記の理由により、経済性、品質・出来形、安全性、環境については従来技術より優れた評価を得ている。</p> <p>経済性：自動省電力モードにより連続動作時間が向上し、乾電池の購入・廃棄・交換費用が抑えられるため、経済性が向上する。</p> <p>品質・出来形：電池残量が不足している事が一目で判断できるため、製品としての品質が向上する。</p> <p>安全性：電池残量が不足した際に省電力モードになり、不点灯の防止に繋がるため、安全性が向上する。</p> <p>環境：自動省電力モードにより連続動作時間が向上し、乾電池の廃棄量が少なくなるため、環境負荷を低減できる。</p>					
	次回以降の評価に 対する視点と評価の 必要性	活用効果調査の結果、活用現場の違いによる大きな差異は認められないため、情報種類記号を「-VE」とし、今後の活用調査、事後評価は実施しないものとする。					
	留意事項						
	活用効果調査表 における 改良点及び要望						
活用効果 調査結果	対象 工事	1	舗装修繕工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R4
		2	舗装修繕工事	「東北地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		3	河道掘削工事	「関東地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R4
		4	舗装修繕工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		5	改良工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R4
		6	道路施設工事	「北陸地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		7	スノーシェッド補修工事	「北陸地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		8	耐震補強工事	「北陸地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R4
		9	舗装修繕工事	「北陸地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		10	緑地維持工事	「東北地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		11	橋梁補修工事	「北海道開発局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R4
		12	舗装修繕工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R4
		13	舗装工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		14	道路改良工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		15	砂防施設工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		16	安全施設工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		17	基金整備工事	「関東地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		18	舗装工事	「東北地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		19	堤防整備工事	「関東地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R2
		20	防護柵設置工事	「中国地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R2
		21	道路防災工事	「九州地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		22	トンネル補修工事	「北陸地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R2
		23	緑地維持工事	「東北地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R3
		24	防護柵設置工事	「中国地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R2
		25	舗装工事	「東北地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R2
		26	維持補修工事	「東北地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R2
		27	共同溝工事	「関東地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R2
		28	安全施設工事	「中国地方整備局」	(従来技術：自動省電力モードを搭載していない保安灯(フラッシュアロー II))	施工者選定型(契約後提案)	R1

活用効果評価結果

令和4年度

東北地方整備局 / 新技術活用評価会議

項目		ケース番号 および年度																			項目の 平均(点)	従来技術 (従来工法) (点)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
活用 効果 調査 結果	経済性	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
	工程	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C		
	品質・出来形	B	B	B	C	B	B	C	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
	安全性	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B	B	B		
	施工性	C	C	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	C	B	C	C		
	環境	B	B	A	B	B	C	C	B	B	B	B	B	C	B	B	C	B	B	B		
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	総合評価点	B	B	B	B	C	B	C	B	B	B	B	B	C	B	B	C	B	B	B		
項目		ケース番号 および年度										項目の 平均(点)	従来技術 (従来工法) (点)									
		20	21	22	23	24	25	26	27	28												
活用 効果 調査 結果	経済性	B	B	B	B	D	B	B	B	B											B	C
	工程	C	C	C	C	C	C	C	C	C											C	C
	品質・出来形	C	B	C	B	C	C	C	B	C											B	C
	安全性	A	B	A	B	B	A	B	A	B											B	C
	施工性	C	C	C	C	C	C	C	C	C											C	C
	環境	C	B	A	B	B	B	B	B	B											B	C
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-											-	-
	総合評価点	B	B	B	B	C	B	B	B	C											B	C
今後、当該技術を活用出来る 工事に活用したいか	今後とも是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用 することもある			技術の改良を強く望む			優位性における判定									
	49%			38%			11%			2%			A	従来技術より大幅に優れる								
													B	従来技術より優れる								
													C	従来技術と同等								
													D	従来技術より劣る								
追跡調査の必要性	無し																					
追跡調査																						